

時習館高校の姉妹校交流

校長挨拶

愛知県立時習館高等学校長 寺田 安孝

本校の姉妹校交流事業は、2009 年度に卒業生の皆さまの御支援をいただく形でセント・ポールズ校（英国）との交流を実施して以降、同校、セント・ポールズ女子校（英国）、オットー・フォン・タウベ・ギムナジウム（O v T G、ドイツ）、ジッ・シン校（マレーシア）と姉妹校提携を結びながら、その規模を拡大してきました。これらの学校と本校により築かれた、日英独馬 4 ケ国による姉妹校関係は、全国の公立普通科高校には例がありません。本校ではこの関係を生かし、教育目標にある「国際人としての資質を持った人間」の育成を推進しています。



生徒の相互派遣は事業開始から続いており、今後は「あいちリーディングスクール（研究推進校）」として、これまで開発してきた「日本の未来を創造的に描くグローバル・リーダー」育成の手法を継承し、日本及び世界の社会に着目した探究活動を伴う形で展開していきます。またSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）の海外研修プログラムでも、様々な交流を行っていきます。生徒の皆さんが、本校ならではの姉妹校関係を生かした交流事業に積極的に参加し、「国際人としての資質」を培うことを祈念しています。

姉妹校の紹介

本校には英国に 2 校、ドイツとマレーシアに各 1 校、計 4 校の姉妹校があります。

セント・ポールズ校（英国）

- ・ ロンドンの南西部にある私立男子学校で、英国内の伝統校 9 校「ザ・ナイン」の一つ。
- ・ 1509 年創立。
- ・ 卒業生は、オックスフォードとケンブリッジに約 60～70 名、アメリカの Ivy リーグ（ハーバード、プリンストン、イエール）に約 20 名が進学する。



セント・ポールズ女子校（英国）

- ・ ロンドンの南西部にある、英国初の私立女子学校。
- ・ 1904 年創立。
- ・ DNA 二重らせん構造を解明する写真を撮影したロザリンド・フランクリンは同校の卒業生。
- ・ 組曲「惑星」の作曲家グスターヴ・ホルストは、かつて同校の音楽教師として勤めていた。

オットー・フォン・タウベ・ギムナジウム（ドイツ）

- ・ バイエルン州の州都、ミュンヘンにある男女共学の公立学校。
- ・ 1967 年創立。
- ・ 11 歳から 18 歳までの 8 学年の生徒が在籍する。優秀な生徒はドイツ最難関の大学の一つとして知られる、ミュンヘン工科大学へ飛び級で進学する。



ジッ・シン校（マレーシア）

- ・ ペナン州ブキマタジャンにある、男女共学の中等教育学校。
- ・ 1918 年創立。
- ・ 13 歳から 18 歳の生徒が在籍し、卒業生の中には日本の高等専門学校に進学し、理工科系大学を目指す者も多い。
- ・ 中国語で「卓越学校」と書かれることもあり、その名の通り、マレーシア国内屈指の進学校として知られる。

時習館高校

- ・ 1893 年創立。



姉妹校からの生徒受け入れ

これまで5～6月にマレーシアから、10月には英国・ドイツから姉妹校生徒を受け入れ、本校生徒宅にてホームステイを行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2020～22年度の受け入れは中止となりましたが、姉妹校の生徒及び教員とのオンライン交流を、以下のように実施しました。

2021年8月：マレーシア姉妹校生徒との交流

2022年3月：英国姉妹校教員による講義、英国・ドイツ姉妹校生徒との研究発表を通じた交流

2022年10月：マレーシア姉妹校生徒との研究発表を通じた交流

2023年3月：ドイツ姉妹校生徒による国際交流に関する講演と交流

2023年度は受け入れを順次再開し、5～6月にはマレーシア、10月には英国からの受け入れを、それぞれ行いました。続く2024年度は下記のとおり、全姉妹校からの受け入れを行うことができました。

（１）マレーシアからの生徒受け入れ〔2024年5月〕

4日間の本校訪問中、8名の姉妹校生徒には2年生全クラスの英語の授業に参加してもらい、プレゼンテーションを通して本校生徒と交流する機会を設けました。また1年生についても、昼食や希望者を対象とした座談会を通して交流する機会を設け、非母語話者同士による英語でのやりとりを行いました。生徒からは「英語が通じた時は今までの勉強が生きた感じがして嬉しかった」「現地の文化を教えてもらい、海外への関心が増した」といった声が多く聞かれました。また姉妹校生徒のホームステイを受け入れた生徒は、彼らのためにワークショップを開き、日本の遊びの実演や和菓子作りを行いました。一週間の受け入れを通して、彼らにとっての日常の一端に触れたことで、本校生徒は日本の習慣や生活様式について再認識することができたようです。



（２）英国・ドイツからの生徒受け入れ〔2024年10月〕

英国及びドイツの姉妹校の生徒と先生方が、日本への滞在中、本校に3日間訪問しました。ドイツからの訪問は、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年以来、5年ぶりとなります。期間中は、1・2年生の希望する家庭が、姉妹校生徒のホームステイを受け入れました。

1年生は英語の授業で、日本及び英国・ドイツの文化について互いに紹介し合ったほか、姉妹校生徒と共に、論理的思考を必要とするゲームに挑戦しました。2年生は引率の先生方による講義を受講し、英国・ドイツの都市や文化について学びました。また先生方を含めた全員が、3年生の「総合的な探究の時間」のポスター発表にオーディエンスとして参加し、探究活動に関する質問やコメントを通じた交流を図ることができました。本校生徒の感想には「関わったことのない文化に触れることができ、外国に行きたいという気持ちが高まった」「あまり話しかけられなかったのが、次は積極的に話しかけたい」など前向きなものが多くみられました。これらの思いを胸に、更に意欲的に外国語学習に励むことを期待します。



今後も本校生徒の国際性の育成のため、様々な形で姉妹校との交流の機会を設ける所存です。

本校生徒の派遣

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2020～21年度のマレーシア研修と2019～22年度の英国・ドイツ研修は中止となりましたが、下記のとおり順次、再開しています（ドイツ研修は2025年度から再開）。2024年度の研修では、全ての派遣生徒が姉妹校生徒宅に約1週間ホームステイし、現地の生活や文化を学ぶほか、姉妹校や大学、企業、在外公館を訪問することで、国際的に活躍できる人財となることを目標に実施しました。



	マレーシア（2025 年 1 月）		英国（2025 年 1 月）	ドイツ（2019 年のもの）
1日目	・ホストファミリーと行動	1日目	・ホストファミリーと行動	・ホストファミリーと行動
2日目	・在外公館、大学での研修 在ペナン日本国総領事館、 マレーシアサインズ大学、 豊橋技術科学大学施設訪問	2日目	・姉妹校での研修① 授業参加、研究発表	・姉妹校での研修 授業参加 ・姉妹校生徒との交流会
3日目	・姉妹校での研修① 授業参加、研究発表等	3日目	・姉妹校での研修② 授業参加、研究発表	・ミュンヘン市内での研修 在ミュンヘン総領事館訪問 歴史的建造物訪問
4日目	・姉妹校での研修② 授業参加、文化交流等	4日目	・博物館、大学での研修 大英博物館、UCL 訪問	・姉妹校での研修 課題研究発表、ディスカッション ・名所旧跡訪問
5日目	・姉妹校での研修③ 授業参加、研究発表 サイエンスアクティビティ	5日目	・大学、在外公館での研修 研究室、日本国大使館訪問	・アウグスブルク研修 大学等訪問
6日目	・企業での研修 ViTrox Technologies 社訪問	6日目	・美術館、博物館での研修 ナショナルギャラリー、 自然史博物館等訪問	・ミュンヘン市内での研修 アルテピナコテーク訪問 オリンピックスタジアム訪問 国際企業（BMW）訪問

（１）2024 年度マレーシア研修 [2025 年 1 月]

姉妹校では、研究発表、授業参加、文化交流、サイエンスワークショップなどを実施し、マレーシアの教育環境を体験しました。研究発表では、参加生徒たちの研究成果を英語ポスターにまとめ、英語でのプレゼンテーションを行いました。マレーシアは多民族・多言語の国家であり、姉妹校生徒たちは中国語、マレー語、英語を自在に操ります。姉妹校生徒や現地教員からの質問に答え、交流を重ねる中で、生徒たちのコミュニケーション能力と英語能力が向上していきました。



在ペナン日本国総領事館では、総領事から生徒たちの研究に関するアドバイスをいただき、意見交換をしました。母国語で高等教育を受けることができる日本の教育環境の利点や、マレーシアの多民族・多言語を乗り越えての経済発展という観点からお話をお聞きし、生徒たちの大きな刺激となりました。

マレーシアサインズ大学では、細菌の観察やPCR検査についての講義を聴き、実験操作の一部を体験しました。ペナンに本拠地を構える多国籍半導体検査企業 ViTrox Technologies 社では、海外での事業展開についてのレクチャーを受け、電子回路に関するワークショップに参加しました。大学・企業訪問ともに、マレーシアの科学教育の発展や、最先端で活躍する科学者の研究活動の一端に触れることができました。

参加生徒たちは、マレーシアの方々の前向きで積極的な姿勢、異なる民族・宗教・言語が共存し、それらの障壁を超えて協力している様子を体感し、英語能力やコミュニケーション能力はもちろんのこと、それ以上に大きな学びを得て帰国しました。1 週間の研修は、生徒たちのかけがえのない財産となりました。

（２）2024 年度英国研修 [2025 年 1 月]

今年度は2つの姉妹校に1日ずつ滞在し、午前4コマ・午後4コマの授業の殆どに参加することで、姉妹校生徒の学校生活の一端に触れることができました。参加生徒にとって授業内容は難しく、形式も一方的な講義ではなく、自らの考えを述べるのが求められる中、同世代の姉妹校生徒がそれに難なく対応する姿に、大きく感化されたようです。また姉妹校では、多くの聴衆を前に研究発表を行う機会に恵まれました。姉



妹校生徒からの質問を聞き取り、的確に回答するというプロセスを通して、自らの研究に対する姉妹校生徒の視点を学ぶことができました。

大学及び在外公館での研修も、充実したものとなりました。UCLでは「日本人の内向き志向」について、自らも大学院時代に海外で学んだ経験をもつ日本人教員による講演を受けました。UCLは伊藤博文や井上馨など、現在の日本の礎を築いた人物が多く派遣されており、帰国後の彼らの活躍と現代の日本人の傾向についての講話から、**学生として海外に身を置くことの意義について学ぶことができました**。また在英国日本国大使館では、公使から外交に関する講話をいただきました。外交官としての経験に基づく、「我々は他国との『違い』に着目しがちだが、それを乗り越えるための鍵は他国との『共通点』を見出すことにある」という公使の話は生徒の琴線に触れたようで、本研修における異文化理解の経験は今後生きるものであると体感することができました。

現地での多様な研修を通して、幅広い教養と視野を身につけることの重要性を学んだ参加生徒が、その学びを他の生徒とも共有し、世界を舞台に活躍したいという機運が本校において高まることを祈念します。

（３）2018 年度ドイツ研修 ※2025 年度より再開

滞在中 2 日間、姉妹校を訪問し、国内事前研修から取り組んできた課題研究の発表を行いました。発表を聞いた姉妹校生徒はその内容に興味を持ち、続いて行われたディスカッションでは、参加生徒は彼らと活発に話し合いをすることができました。日本文化の紹介では、折り紙やけん玉などの伝統的な遊びや漢字を教え、交流を図りました。参加生徒は、この経験を通して、自国の文化を分かりやすく伝えるために自国の文化をより深く理解することの大切さを実感していました。姉妹校生徒が自由に意見を述べ、積極的に課題研究を行う姿勢を目の当たりにし、2ヶ国間の教育の差異について考えることができました。

姉妹校のあるミュンヘン市内をはじめ、滞在 4 日目に訪問したノイシュヴァンシュタイン城やヴィース教会、同じく 5 日目の古都アウグスブルク等、訪問した各地では、建造物の建築様式の違いやドイツの歴史の変遷について学ぶことができました。また、国際的に事業展開する企業（BMW社）および国際機関（在ミュンヘン日本国総領事館）への訪問は、**国際社会で活躍するためには、語学力だけでなく自分の興味や思考が大切であることを認識する機会となりました**。参加生徒は研修を通して、日本により関心を持ち、その文化を的確かつ積極的に伝えることの大切さを実感しました。



本校の姉妹校交流事業 年表

- 2009 年 7 月： 時習 11 回生の卒業 50 周年事業として、セント・ポールズ校より生徒を受け入れ
～ 2010 年度より本校の教育目標に根ざした、本格的な姉妹校交流事業を開始 ～
- 2010 年 10 月： 姉妹校交流事業として初めて、英国より生徒を受け入れ（セント・ポールズ校）
- 2011 年 1 月： セント・ポールズ校と姉妹校提携
- 3 月： 姉妹校交流事業として初めて、英国へ生徒を派遣（セント・ポールズ校）
- 9 月： セント・ポールズ女子校（セント・ポールズ校の姉妹校）と姉妹校提携
- 2012 年 11 月： O v T G（セント・ポールズ校の、ドイツにおける姉妹校）と姉妹校提携
- 2013 年 3 月： ドイツへ初めて生徒を派遣
- 2017 年 1 月： マレーシアへ初めて生徒を派遣（ジッ・シン校等、計 3 校を訪問）
- 6 月： ジッ・シン校より初めて、生徒を受け入れ
- 2018 年 1 月： ジッ・シン校と姉妹校提携。本校にとって初めてのアジアの姉妹校となる

今後とも、本校の姉妹校交流事業への皆さまの御理解と御支援をお願い申し上げます。

2025 年 2 月 時習館高校探究推進部 発行